

シンポジウム 障害者スポーツからのメッセージ

～施設から地域へ、太陽の家の挑戦～

社会福祉法人太陽の家 訓練課長 堀川 裕二

現在、太陽の家訓練課と大分県障害者スポーツ指導者協議会が共同で取り組んでいるのが、軽スポーツの普及活動である。具体的には、卓球バレー・ボッチャ・フライングディスクという3つの競技を中心に県内（一部は県境を越えて）各地で軽スポーツ教室を開催したり、交流大会を実施したりして普及に努めている。

「どこでも最低3つの競技が出来る環境を整えよう！」これがわれわれの合言葉である。スポーツにおいては自発性が不可欠であることは言うまでもないが、特に障害者にとって仮に1つのスポーツしか出来なければ、それは訓練でしかなく、いくつかのスポーツの中から選んでこそスポーツと言えるのである。

卓球バレーは、京都の養護学校から始まった6人制のゴロ卓球である。卓球台を6人对6人で取り囲み、ネットの下に作られたピン球1個半分隙間を通して打ち合うスポーツだ。6人制と3回までで返さなければならないというルールから「卓球バレー」と呼ばれている。京都から太陽の家に導入した数年は、レクリエーション的に取り組んでいるに過ぎなかったが、5年程前から本格的な普及に取り組んできた。まず、スポーツ教室のメンバーに年に1度は本場である京都の大会に連れて行くことを約束し、目的意識を芽生えさせた。しかし、本場に行ってみると相手が強すぎた。少しずつ下がってくる意欲を太陽の家の親睦団体の行事に加えることで解消した。そしてそれと平行して県内各地の施設、学校や障害者団体への普及に努めた結果、今年9月に開催した「大分県交流大会」には県内外から18チームが参加している。

ボッチャは、重度な脳性まひ者を対象としたスポーツで、パラリンピックの正式種目の一つでもある。赤と青の皮製のボールをジャックボールという白い目標球に近づけるというヨーロッパで生まれの競技だ。この競技も3年程前から本格的に取り組んできたが、今年は太陽の家から二人の国際選手（6月にポルトガルで開催された世界選手権と10月に韓国で開催されたフェスピック大会）が生まれた。また、9月に開催された「大分県交流大会」には20名が参加、県内への普及が急速に進んでいる。

フライングディスクは、frisbeeという名で一般にも親しまれているが、障害者スポーツとしては十数年前から知的障害者を中心に取り組まれてきた。昨年身体障害者と知的障害者の全国大会が統一された「全国障害者スポーツ大会」の正式種目になったことで幅広い障害者への普及が急がれている。今年度、大分県障害者スポーツ指導者協議会では大分県知的障害者育成会と協力してその普及に努めている。

このように、太陽の家では常に施設内でのスポーツ活動を地域への普及活動と連動して取り組んできた。古くは、車椅子バスケットボールや車椅子マラソンの普及に大きな役割を果たしてきた伝統を引き継ぎ、今後も一人でも多くの障害者の方々がスポーツに出会い親しめるように活動していきたい。